

週刊 座、グレート・リーダーズ通信

『インド私録-思い切り取り組んだこの 50 年-』 No.17

今週のキーワード！ 税金

すべては国益として還元

1993 年 5 月 9 日、“Mr. Tomoji Mutoh’s discovery of India”と題された記事が大きな写真とともにムンバイの夕刊紙、アフタヌーンに掲載されました(下写真)。『インド私録』に出てくるベーラム・コントラクター氏が書いた武藤氏のインタビュー記事です。記事はボンベイ総領事の任を終え帰国する武藤氏を惜しむ気持ちをムンバイの読者に訴えるものとなっています。

コントラクター氏は、「私はよく彼の訪問を受けたが、ムンバイではそれは私一人ではない」と回想し、武藤氏が在任中、休日などを除く稼働日の 848 日のうち、616 日を訪問日に充てていたことを紹介しています。前号でご紹介した、「自ら訪ねていく」、「数分早く行く」という武藤

氏の外交姿勢もこの記事に書かれています。この姿勢について、武藤氏は放送の打ち合わせでこのように語っています。「外交官の仕事は何をやれとは言われぬ。新聞だけ読んで東京に報告することもできるが、自分は歩き回った。在外公館に赴任すると日本よりたくさん給料を貰えるわけだが、なぜそれだけ貰えるかを考えないといけぬ」。すべては税金で賄われていることを考えなくては行けないというのです。

その姿勢は、総領事公邸のフル活用に繋がりました。新聞の写真にもある広大な総領事公邸に足を踏み入れたとき、武藤氏は、「これは夫婦 2 人で住むだけではいけない」と考え、インドの政・財・官、ジャーナリストを招いた集まりを頻繁に開催しました。税金の使い道として公邸を各界のトップが集う場所とし、日印理解の拠点としたのです。

R. K. ラクシュマン

88 歳で衰えぬ意思

放送にも話題になった漫画家、R.K.ラクシュマン氏は、タイムズ・オブ・インド紙の漫画コラムを担当、その時々々の世相を切り取って一目でわかる漫画に表し、その光景をコモンマン(=庶民)と名づけた飄々たる登場人物とともに読者が共有できる作風を確立しました。日本では登

場人物の名前を画中に書く風刺漫画もあります。ラクシュマン氏の場合は、それは一切なかったとのこと。

この夏、タイムズ・オブ・インドにラクシュマン氏入院という記事が載りました。手術自体は鼻腔胃管による栄養補給を胃への直接補給に切り替えるもので、経過は順調とのこと。8 月 31 日付けタイムズ・オブ・インドは、冒頭で「Ill health could not stop his pen.」とその不屈ぶりを評しています。

新刊のお知らせ

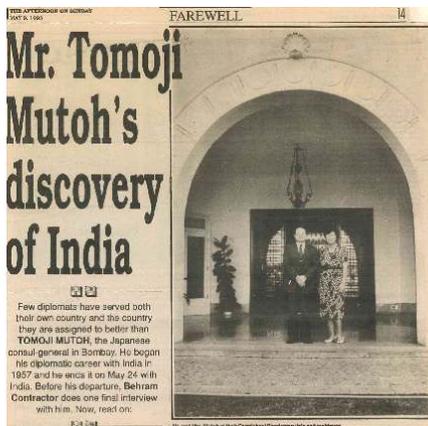
巨象インドの憂鬱-赤の回廊と宗教テロル-

武藤氏の新刊が出ました。『巨象インドの憂鬱-赤の回廊と宗教テロル-』(出帆新社)価格は 2,100 円+税のところ、リスナーの方には税込み 2,000 円の特別割引の特典があります！別添の FAX に注文書の◆著者関係の方の欄に『ラジオ・ニュームンバイ』とご記入ください。

また、この出版を記念して新橋(11 月 5 日)、横浜(11 月 20 日)、鎌倉(12 月 19 日)の三カ所で講演も行われます。参加方法は別添をご覧ください。

また、この出版を記念して新橋(11 月 5 日)、横浜(11 月 20 日)、鎌倉(12 月 19 日)の三カ所で講演も行われます。参加方法は別添をご覧ください。

次回放送は今日。



1993 年 5 月 9 日付けの Afternoon 紙。本文には「18 年間もインドにいた外交官はいない。彼こそインドの数少ない友人である」との一文も。写真はボンベイ総領事公邸のエントランス。

4/6判・並製
定価(2100円+税)

武藤友治著

元在ボンベイ日本総領事

巨象インドの憂鬱

—赤の回廊と宗教テロル—

万華鏡のインドを読む

多様性国家の名で知られるインドは、宗教、言語、民族の坩堝ともいわれる。それに加え、インドには異教徒間の対立、極左勢力の台頭、テロリストの跳梁、ヒन्दゥー至上主義の高まり、カースト間の対立といったインド特有の問題がいくつも存在し、これらの問題がインドの体質を際立って複雑なものにしている。確かに、経済自由化後のインド経済の発展には目覚ましいものがあり、インドの国際的地位の高まりも、インドの経済発展に与るところが大きいことは、何人も否定できない。しかしその一方で、経済発展の恩恵に実際に浴している層が、一億人ものインドの人口の三〇パーセント程度にすぎないとも言われる。このようなインドの現実に着目するなら、経済的側面からのみインドを見て、インドを理解したと判断すること自体が、不十分で偏頗ということになる(まえがき)。

目次より

- 第一章 燎原の火インド・イスラム原理主義
- 第二章 ヒन्दゥー社会の終わりの始め
- 第三章 ブーメランのインド世俗主義
- 第四章 台頭するヒन्दゥー原理主義『サング・パリワール』
- 第五章 赤いタリバン
—インド共産党毛沢東派(ナクサライト)
- 第六章 タミール・イーラム解放のトラ
—インド系外国人(PIO)の難題
- 第七章 西部戦線異状ありインドVSパキスタン
- 第八章 AK-47の銃眼カシミール
- 第九章 チャンドラ・ボースは生きている
- 第一〇章 ダブルスタンダードの印米原子力協力協定
- 第一一章 南アジアの覇権主義者インド
- 第一二章 経済至上主義の日印関係



巨象インドの憂鬱
—赤の回廊と宗教テロル—

巨象インドの憂鬱
—赤の回廊と宗教テロル—

武藤友治著

出帆新社

ブリックスの旗手インドは、何処へ行こうとしているのか。
急増する毛派「赤の回廊」・頻発する宗教テロル…。

・ナクサライト毛派の勢力範囲はインド全体の40%、9万2000平方キロにも及ぶ地域に拡大しており、その勢力は2万人に及ぶ(インド政府の治安機関)
・近年インドでは、社会的に地位の高いイスラム教徒までが、過激派勢力を支援する傾向が強まっており、イスラム・テロ組織を名乗る100を越すグループが、インド国内に雨後の筈のように急増している(インドの代表的週刊誌"OUTLOOK")

出帆新社

◆著者連続講演会◆

- 11月5日(金) 18:00~21:00 TKP新橋ビジネスセンター
- 11月20日(土) 14:00~16:00 横浜開港記念会館
- 12月19日(日) 10:00~11:30 鎌倉生涯学習センター

◎FAX注文書◎

() (冊注文します「5冊以上は送料無料」)

お名前

お届け先 〒

お電話

メールアドレス

- ◆日印協会会員の方()
 - ◆著者関係の方()
 - ◆インド関連団体の方()
- ()に○をして下さい。

1冊2000円(税込)、5冊以上は上記通りです。

◎注文先◎

FAX03-3426-7474

出帆新社 世田谷区桜2-18-13

TEL 03-3439-0705

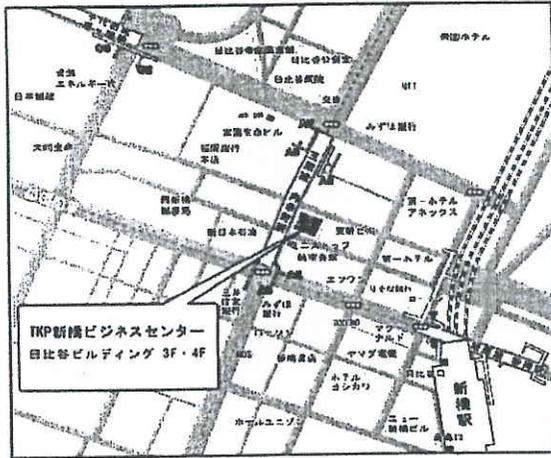
「巨象インドの憂鬱・赤い回廊と宗教テロル」

武藤友治さんの講演会のお知らせ

武藤友治さんの新しい本の出版を記念に講演会を下記の通り開催致します。ふるってご参加ください。なお、会場等手配の為、参加者、おひとり様につき下記の入場料を頂きます。予めご了承ください。

● TKP 新橋ビジネスセンター

② 横浜開港記念会館



港区新橋 1-1-1 日比谷ビルディング 4F-D
電話: 03-3519-6533

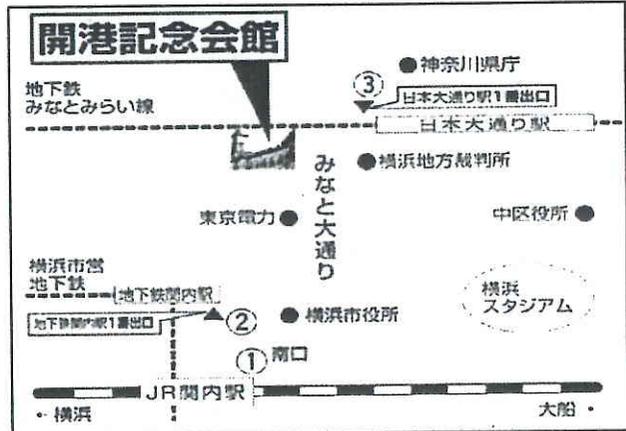
分

JR 新橋駅 銀座口下車 徒歩 5 分

地下鉄 三田線 内幸町駅 A2 出口 徒歩 2 分

③ 鎌倉市生涯学習センター 電話: 0467-25-

鎌倉市小町 1-10-5 JR 鎌倉駅東口下車 徒歩 3



横浜市中区本町 1-6 電話: 045-201-0708
みなとみらい線 日本大通り駅下車 徒歩 1

市営地下鉄 関内駅 出口 1 徒歩 10 分



FAX TO 03 (3426) 7474 (有) 出帆新社宛 (電話: 03-3426-7475)

講演参加、書籍ご購入希望の方は、下記にご記入の上、FAX して下さい。

書籍の請求書は、書籍と一緒に、別途お送りします。日印協会会員は、1冊 2000 円 (税込)

講演	実施日・時間	講演会開催場所・演題 (収容人数)	丸〇で囲む
① 1000 円	2010 年 11 月 5 日 (金) 1800~2100 時	TKP 新橋ビジネスセンター (48 名) 演題: 「多様性国家・インド統一」	参加 不参加
② 1000 円	2010 年 11 月 20 日 (土) 1400~1700 時	横浜開港記念会館 (50 名) 演題: 「近くて遠い国インド」	参加 不参加
③ 500 円	2010 年 12 月 19 日 (日) 1000~1130 時	鎌倉市生涯学習センター (30 名) 演題: 「変わるインド・変わらないインド」	参加 不参加

所定の 15 分位前から、入館・入室が可能です。講演は、上記の時間より遅れるときがあります。

お名前 (会員: ○)	送付先 (ご住所・電話)	書籍希望 冊数
	〒	() 冊
	電話:	5 冊以上送料無料

会員の方は、ご自分のお名前の前に、○を付けてください。